

江喜七郎さん(62)



ひと

江喜七郎さん(62)

し、ウクライナ大使だった04年には、大統領選挙のやり直しで野党が政権を奪ったオレシン革命が起きた。

のが信条。外務省内では「芯の強い行動派」と評される。「その国に愛情を持って接すること。日本の尺度で物を見ることは絶対駄目だ」。韓国駐在中の3年間、日本に残した高校生の息子に送った手紙は、91年に「息子への手紙」という本にまとめられ、日韓でベストセラーになった。

三つの「革命」に立ち会った。

79年、一等書記官として赴任していたイランでイスラム革命に遭遇。91年には公使としてソ連崩壊を目の当たりに

仙合出身。故郷の戦国大名伊達政宗の家臣で、慶長遣欧使節を率いてスペイン、ローマに渡った文倉常長を「外交の先人」と仰ぐ。大使館にこもらず、現地の人と触れあ

昨年11月、大阪担当大使に起用された際、「京都や神戸の人にも親近感を持ってほしい」と、外務省首脳にかけあい、関西担当大使と名前を変えた。「オール関西が手を携え、国民レベルの外交を深める手伝いがしたい」。関西にある各国の総領事館や交流団体と情報交換をする毎日だ。

関西の政財界は08年の主要国首脳会議(サミット)誘致に名乗りをあげている。「日本が環境問題や安全保障にどう取り組むのか。関西から世界に提言する構想力を示してほしい」と注文をつける。

文 伊藤 厚史
写真 川村 厚子